



第55回 粉体工学に関する講演討論会を東京で開催

- 【日時】令和5年9月4日(月) 午前10時00分～午後6時30分
- 【場所】東京ガーデンパレス(〒113-0034 東京都文京区湯島1-7-5) ならびにオンライン
- 【主催】公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
- 【企画】粉体技術談話会
- 【後援】ホソカワミクロン株式会社

去る9月4日(月)に、「第55回 粉体工学に関する講演討論会」が開催され、「持続可能な社会に貢献する粉体技術」をテーマとして、粉体工学・粉体技術の基礎と応用の観点から、3件のKONA賞受賞講演を含む7件の講演がありました。今回も、昨年度に引き続き、会場とオンラインでのハイブリッド開催となりました。

最初に、細川悦男理事長より開会挨拶があり、本講演討論会は従来、大阪と東京で隔年に開催してきたものの、コロナ禍の影響で2年間中止となり、また昨年は財団設立30周年記念特別講演会との合同開催により大阪で開催されたため、5年振りに東京で開催できることの喜びの想いが伝えられました。その後、2022年度KONA賞の贈呈式が開催され、細



KONA 賞贈呈式にて

(細川理事長と2名のKONA賞受賞者、左から神谷先生、理事長、田中先生)

川理事長から、受賞者である東京農工大学理事・副学長の神谷秀博教授(受賞テーマ: Particle adhesion and aggregation behavior characterization and control)、ならびに大阪大学の田中敏嗣教授(受賞テーマ: Development of discrete particle modeling and simulations of gas-solid flows and granular flows)に手渡されました。



講演討論会会場風景

引き続き講演会では、これらの2022年度受賞者に加えて、2021年度受賞者である京都大学の松坂修二教授からKONA賞受賞記念講演が行われ、それぞれ微粒子間の相互作用力を考慮した付着・凝集挙動の制御、粉粒体流動のシミュレーション法の開発、ならびに



粉体特性評価法の高度化と先進粉体ハンドリング技術の展開について、粉体工学の基礎的な面からの最先端の研究成果について分かり易く解説されました。その後、具体的な粉体材料に焦点を当てたテーマとして、東京大学の脇原徹教授、ならびに大阪大学の関野徹教授から、それぞれゼオライトナノ粒子の新規調製法とその応用、ならびに酸化物ナノ粒子の構造制御による新しい光物理化学機能についてのご講演がありました。

そして最後のセッションでは、注目製品開発への粉体技術・ナノ粒子加工技術の応用に関して、㈱村田製作所の伊藤大輔氏、ならびにホソカワミクロン㈱の笹井愛子氏から、それぞれ次世代電池、ならびに再生医療、化粧品等を対象として講演されました。講演会の最後に、粉体技術談話会の鹿毛浩之会長から閉会挨拶があり、講演会は無事終了しました。



懇親会風景

講演会の後、今回4年振りに懇親会が催され、終始和やかな雰囲気の中、講師と来場者との間で有意義な交流が行われました。本年の会場への来場者数は100名を超え会場は満杯状態となり、オンラインを合わせると240名近くの参加がありました。次回(第56回)は、大阪での開催を予定しております。